

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 原 宏輔2010 年度 (入学)

## 1. 研究課題:

**ウガンダ・ルウェンゾリ氷河の氷河後退が、周辺の生態系に与える影響調査、  
および、氷河消失がルウェンゾリ山地の周辺民族に与える影響の評価**

## 2. 派遣期間:

平成 24 年 1 月 23 日 ~ 24 年 2 月 21 日 ( 30 日間)

## 3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回、実際に現地（ルウェンゾリ氷河）に足を運んでみて、実際に氷河が融解していることが確認できた。現地のガイドの話や昔の写真と、今回撮った写真を比較してみると、ここ 10 年以内でも大きく後退していることが明瞭であり、氷河が解けたことで岩肌が露出し、登山ルートが変更、難化していたり等もしていた。この傾向が続くとすれば、毎年末端部分の計測や同じ位置から写真を撮れば、氷河後退の速度を計測できると思われる。

また、氷河上の観測では、ルウェンゾリ山の氷河は非常に融解水が豊富であることがわかった。同緯度の他の氷河（たとえばキリマンジャロやアンデスなど）と比べ、表面を流れる水量が豊富であるため、微生物の生物量なども格段に多そうであった。実際にサンプルを回収してきたので、実際にデータとして出してみたいと思っている。

## 4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回の渡航により、ルウェンゾリ山地の氷河が大変特異で面白い環境を含んでいることがわかった。これからは継続的に現地に渡航し、より詳細な分析や、また推移を記録して行きたいと思っている。また、アフリカの他の氷河（ケニア山、キリマンジャロ山）との比較や、他の熱帯氷河（ペルーアンデスなど）との比較を行うため、各地に海外渡航する必要があると感じている。これからは、国内に長くとどまることなく、足しげく海外渡航を行い、現地に足を踏み入れて行きたいと思っている。

## 5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

留学対象とできる国が、もっと増えると良いのではないかと思います。

同様の支援プログラムがあれば、また参加したいです。

よろしく願い致します。

署名 \_\_\_\_\_